

スネケブカヒロコバナカミキリ

Merionoeda hirsuta(Mitono & Nishimura)
コウチュウ目・カミキリムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県が分布北限。嶺南の調査によって生息地が増える可能性がある。照葉樹林を主な生息地としており、海岸沿いの照葉樹林は開発等の影響を受けやすい環境であることから、今後も注視が必要であると判断した。

種の特徴

体長 10～14 mm。前胸背板は中央両側、正中部中央後方、側面に明瞭な瘤状突起がある。上翅は黒色で短く、腹部はほぼ全体が露出する。脚は各腿節肥大部に暗色長毛を、脛節には金色長毛を備える。成虫は夏季にノリウツギ、リョウブ等を訪花する。ネムノキに付く。

分布

本州～九州、対馬に分布。県内では南越前町糠、高浜町青葉山での記録があり、今回の調査では小浜市須浦で本種が確認された。2007年に福井市でも採集されている。

生息を脅かす要因

照葉樹林（暖帯林帯）を主な生息場所としていと考えられるが、県内ではこのような林の分布が少なく、島嶼や社叢、海岸沿いの照葉樹林の改変が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、日本鞘翅学会（1984）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○		○			○									○

ニッポンモモブトコバナカミキリ

Merionoeda formosana septentrionalis Tamu & Tsukamoto
コウチュウ目・カミキリムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

近隣では京都府で要注目種に指定されている。県内では常神半島と御神島で生息が確認されているだけで、分布北東限となっている。今回も常神半島（若狭町神子）で確認されたのみで、嶺南地方を中心にさらなる調査が望まれる。

種の特徴

体長 6～9 mm。前縁後、正中部、両側、側面に弱い瘤を持ち、その間に点刻がある。上翅は第1腹節端に届かない。後脚は長く、腿節は後半が肥大、脛節の背面の端棘は長く鋭い。成虫は盛夏に出現し、各種の花に集まる。寄主植物はハマビワ、タブ等。

分布

本州（西部）、冠島、四国、九州、対馬、姫島、対島、五島列島若島、幸島、種子島、屋久島、口永良部島、中之島に分布。県内では若狭町常神、神子、御神島で記録がある。

生息を脅かす要因

県内では常神半島周辺の照葉樹林で生息が確認されているのみであり、この近辺の照葉樹林が開発等により消失すると本種に脅威となる。小浜市、高浜町内等、同様に照葉樹林の広がる地域での調査が望まれる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、日本鞘翅学会（1984）、大林ら（1992）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○																

オニホソコバナカミキリ

Necydalis gigantea gigantea Kano
コウチュウ目・カミキリムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

かつてはクワ畑で多く採集されていたが、養蚕業の衰退とともに激減している。17都道県でレッドリストに掲載されている。本県において戦後の記録はない。

種の特徴

体長 16.5～34.0 mm。上翅は短縮し腹節に届かない。腹部は細長い。体色は黒い。前胸背板側縁に金色の微毛群を持つ。成虫は7～8月に出現し、クワ畑で採集されている。幼虫は広葉樹の生木の枯死部を食べて育つ。

分布

国内では北海道～九州に分布する。クワは普通にみられる樹木であるが、本種の好むような古木は少ない。今回の調査では発見できなかった。

生息を脅かす要因

クワ栽培の終焉。県内における現在の生息状況の把握が望まれる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、大林・新里（2007）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○												